

### 風水って何？

中国で生まれ東アジアに広まった思想で、その土地での自然・環境観やそれに対応した生活術を集大成したものだ。「風」と「水」はたえず動き、流れ、循環して、「気」を運びもたらします。「気」は、日月のように「陰陽」の二気からなり、万物を生み出し、生（生命・活力・吉凶等）に影響をあたえるエネルギーです。気の流れをもたらす風や水の流動は、山の形や川の流れなどによって左右されます。気の流れを、地勢・方位などから読み取り、都市・住居・墓などをつくる時に土地の吉凶を判断します。

「穴」とは、気が湧き上がる土地の重要なポイントのことをいいます。そこに墓をつくり、その前面の「明堂」に町や家をつくるのがよいとされます。風水において最も優れた地である「龍源」とは、天の気と地の気が充滿し、それらの気を常に保つことができる場所を呼びます。「龍脈」としての山並みの祖宗山が「龍源」となり、生氣を各地に運ぶ源となります。

### 風水に「八幡宮」は？

日本では古来から、京都をはじめとして、風水を利用したまちづくりが行われてきました。その多くは、中世・近世・近代といった時代の移り変わりの過程で、新しい時代のまちづくりが、その時代の風水によって行われ、以前の姿をとどめない場合が多いようです。

風水では、山を背にして南に開けた地で、前面に池や河川を臨む「背山臨水」、山丘が襟のように、川が帯のように囲んでいる「山河襟帯」、風をためて水を得ることができ「藏風得水」、四神獣（玄武・青龍・朱雀・白虎）によって四方を守られた「四神相應」の地が、理想的な場所とされます。中国・朝鮮では四神獣は墓や住居の守りとされたのに対し、動物への信仰が盛んな日本では都の守護としてもみなされてきました。

### 大内氏と陰陽師

大内氏家臣の日記に、賀茂在宗という陰陽師が登場します。賀茂家は安倍家と並び称される陰陽道の宗家。大内政弘が京から招き、大内氏お抱え陰陽師となりました。異変を察知したり吉凶を占って、政弘に進言、祭祀祈禱を行わせるなど、危機管理上重要な役割を果たしたようです。

在宗の子在重も大内義興の意を受け、足利義植の山口下向、上洛後の將軍復帰の際同行しています。在重の子在康は、義興が大神宮を勧請した時、内宮の柱を立てる日時に進言しています。賀茂家の陰陽師が代々山口に下向しており、大内氏との深いつながりが窺えます。

### 大内氏の風水

鳳凰山を龍源とし、龍脈を流れてきた気は七尾山、大蔵山へと至り、龍穴（エネルギースポット、ふもとの寺社等）から明堂（山口、大内館）へと流れ込みます。

大内氏は京にならってまちづくりをおこなった、といわれますが、京都では、どこにいても東西南北がはっきりわかる平安京以来の町割の方向性に対し、山口の町は太陽運行にも関係すると思われる大蔵大路、地勢の制約のもと形成された堅小路とを基軸とし、その交わる地に大内氏館を設けました。東西・南北軸から傾いています。鎌倉の若宮大路のように、傾いた基幹道の方位に沿って四神配置等が設定される場合もあり、山口もそのように見立てられたのかもかもしれません。

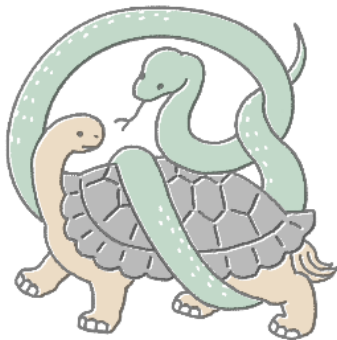


イラスト やまでらわかな

北の守護・玄武



八坂神社境内の盃状穴

**龜を大事にした大内氏**  
大内政弘は鷹狩り用の鷹の餌として、すっぽんや亀、蛇を用いることを禁止しました。違反した者への罰則は、所領の没収、追放、留置、さらに死罪となる場合もあり、とても厳しいものでした。北の守護玄武は亀に蛇が巻きついた図で表されており、大内氏が信仰した妙見菩薩の使者として大切にされました。

### 盃状穴

石に盃状のくぼみがうがってあるもの。自然に形成されたものと思われがちですが、人工のものでした。八坂神社や野田神社境内、神田山石棺群が発見された大内地区をはじめ、山口盆地周辺でも多く見つかっています。

盃状穴は世界的にみられ、韓国では男児出産を盃状穴に祈願したり、スウェーデンでは穴にバターを流し込んで豊作を祈るといった信仰が伝えられています。ヨーロッパから中国、朝鮮を渡って日本に伝わったものといわれます。地母神のシンボル・盃状穴。山口の女性たちもひそかに訪れ、子宝や安産を祈願したのかもかもしれません。

### 今八幡宮

鎌倉時代に遡る古社で、「山口の総鎮守」として古くから崇敬されてきました。文龜3年（1503）大内義興が建造したのが今の社殿と思われ。將軍の座を追われ山口へ下向していた足利義植は、毎日家臣を今八幡宮に参らせ、將軍復帰を祈願したといわれ、社殿建立から5年後、義興の力によって將軍の座に返り咲きました。

大内館の北東方向で山口町の隅に位置し「鬼門除け」の守護を担う神社と伝わります。七尾山の尾根から降りてきたところであり、龍脈を伝ってきた気が集まる風水的に最もよいポイントの一つ。

### 瑠璃光寺五重塔

瑠璃光寺の地にはかつて大内義弘の菩提寺香積寺（臨濟宗）があり、その遺構である五重塔は義弘の弟盛見が、義弘の菩提を弔うために建立したものと伝わります。

堅小路を南北軸とした場合、大内館から北方向（玄武）にあたり、東鳳凰山からの龍脈が古城ヶ岳を経て大蔵山に至る、その麓に位置します。五重塔とその相輪の形は、龍脈をたどってきた龍がここで立ち昇っていくようにもみえます。



### 山口大神宮

永正17年（1520）大内義興が伊勢神宮の分霊を鴻ノ峰の麓に勧請しました。明治以前に、天皇の許しを得て伊勢神宮から分霊をうけ、内宮・外宮を勧請した、伊勢に記録が残る唯一の神社といわれます。江戸時代には「西のお伊勢さま」といわれ、西日本各地からの多くの参拝者でにぎわいました。

大内館の西に位置する鴻ノ峰の麓にある大神宮の内宮外宮は、現在南向きですが、大内氏時代には鴻ノ峰を背にして東の大内館方向、日の出方向を向いていました。鴻ノ峰中腹には天岩戸があります。

# 西の菜時記

令和3年3月26日発行  
発行元：山口市菜香亭  
指定管理者  
特定非営利活動法人  
歴史の町山口を甦らせる会

# 西の菜時記

令和3年3月26日発行  
発行元：山口市菜香亭  
指定管理者  
特定非営利活動法人  
歴史の町山口を甦らせる会